

えりはらのぱんやさん

えりはらのパンで、ホッと一息

障がい者支援施設「えりはら」の手作りぱんの販売促進に向け、製品の開発や改善、毎月の販売告知のポスター作成、毎月第4金曜日に6号館1階のロビーにてぱんの販売を行うため、その手伝い等を行います。また実際に「えりはら」を訪問し、施設見学や施設の利用者、支援員の方々と交流も行います。

* TEAM DATA *

メンバー数：7名
活動場所：志摩市
実施主体：社会福祉法人志摩市社会福祉協議会
担当教員：大井 智香子（現代日本社会学部）
活動年度：R02, R03, R04

📢 こんな人におすすめ！

- ・何かCLL活動を始めたいと思っている人
- ・将来福祉の仕事をしたと考えている人
- ・障がい福祉に興味がある人
- ・商品企画・開発、開発した商品を知ってもらうための広告・宣伝活動など、マーケティングに興味がある人
- ・月に2回ほどの活動なので、あまり時間が取れないという人でも活動しやすい

月別活動

- (5月) ・令和4年度の活動について、担当者様との打ち合わせ
・5月販売ポスターの作成、当日の手伝い
- (6月) ・6月以降の活動について、担当者様との打ち合わせ
・6月販売ポスターの作成、当日の動きの打ち合わせ、当日の手伝い
- (7月) ・9月のコラボパン販売に向けて、担当者様との打ち合わせ
・7月販売ポスターの作成、当日の手伝い
- (9月) ・9月販売ポスターの作成、当日の手伝い
- (10月) ・担当者様による、9月限定パンの売上報告
・今後の活動についての打ち合わせ
・障がい者支援施設「えりはら」への訪問・見学
- (11月) ・11月販売ポスターの作成、当日の手伝い
- (12月) ・1年生への活動紹介、2年生への活動紹介
・12月販売ポスターの作成、当日の手伝い
- (1月) ・1月販売ポスターの作成、当日の手伝い
・令和4年度報告書の作成



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

新型コロナウイルスの影響により、昨年度は活動を行うことが出来ませんでした。今年度は主に3つの活動を行いました。

- 皇學館大学内での販売促進
活動の課題として、大学内で「えりはらのぱんやさん」という活動があまり知られていないことがありました。そこで、この活動を多くの人に知ってもらうため、その月ごとの季節に沿った販売日の告知が載ったポスターを活動メンバーで作成しました。掲示はこの活動がより多くの人の目に留まりやすいように、2号館、7号館横の掲示板、ロータリーの3か所で掲示を行いました。その結果、徐々に訪れてくれる学生さんや職員さんが増え、販売促進につながりました。
- 新商品の開発
今年度9月の限定パンは、えりはら担当の志摩市社会福祉協議会の方とメンバー全員で意見を出し合い、新商品の開発に携わりました。パンの案を出す際、例えば「どんなパンがあったら嬉しいか」「惣菜パンと甘いパンならお昼にはどちらが食べたいか」など意見が出しやすいテーマで話し合いを行いました。新商品開発にあたって、工程がたくさんあり作るのが難しいパンなどは利用者さんや支援員さん達に負担がかかるため、秋の要素があり比較的少ない工程で作れるものを提案し合いました。また、値段の設定やターゲットにする年齢層など、考えることが多くあることを学びました。
- 障がい者施設「えりはら」への訪問・見学
これまで新型コロナウイルス感染症の影響で、「えりはら」への訪問・見学ができませんでしたが、昨年10月に初めて何うことができ、大学内の活動だけではできない多くの学びや貴重な経験をすることができました。具体的にはパンの製造所や作業場で、利用者さんがどのように活動や作業をしているのか、見学させていただきました。それぞれの担当場所で、丁寧に取り組む姿が印象的でした。また、「えりはら」についての説明も聞かせていただき、質問もさせていただきました。概要や設立のきっかけなどを知り、より深く「えりはら」について学ぶことができました。最後に利用所さんと話しをさせていただき、利用者さんの思いを知ることができました。この思いを、これからもお客様に繋いでいきたいです。このように、多くのことを学び実りある1日をお過ごさることができました。この経験を、今後に活かしていきたいです。

活動を通して学んだこと

活動を通して、利用者の方が作業しやすい環境の作り方について学ぶことができ、また、障害者の方と共生しながら生活することの大切さに気づきました。例えば、利用者の方は販売員としてレジ打ちも行います。その際にレジ打ちをしやすい工夫として、表にパンの種類とそのパンの値段を記したり、レジスターに値段を打ち間違えないように、数字ボタンに色付きのシールやマーク付きのシールを貼っていたりしていました。これによって、利用者の方は間違えずにレジを打つことができます。障害者の方を支援する際には、支援の介入をしすぎず、彼らが本来持つ力を最大限に発揮させることが重要であると考えます。

実施主体からのコメント

社会福祉法人 志摩市社会福祉協議会
ご担当者様

「えりはらのぱんやさん」のCLL活動を通じて障がい者支援施設えりはらの事業推進にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制約がある中でパンの販売にご協力頂きましたことを感謝申し上げます。大学内での販売につきましてCLL活動に参加して頂いている学生の皆様のご協力により認知度も上がり、えりはらの利用者様と交流により良い刺激となっております。また、学生の皆様にはさまざまな社会情勢の影響を受け多忙な学生生活の中、えりはらのパンを安らぎのひとつのおともにして頂ければ幸いです。最後になりますが、次年度もCLL活動に「えりはらのぱんやさん」として登録させて頂く予定ですので少しでも興味を持たれた方はご参加の程お待ちしております。

担当教員より

現代日本社会学部 大井智香子

今年度もCOVID-19の流行の影響を受け、多くの制約のなかでの活動となりました。そんな逆境をものともせず、メンバーのみなさんと協力して、知恵と工夫を出し合い活動を重ねていただきました。日時の調整やミーティング場所(教室の予約)なども併せて、ほぼ毎週のミーティングを自分たちで開催・運営していました。役割分担を決めて毎月の「えりはらのパン」の販売をサポート、パン販売のポスターは商品の魅力が伝わるように毎回工夫が凝らされていました。みなさんの意見を取り入れた新規商品も開発されましたね。みなさんの活動の様子を、いつも頼もしく思い、尊敬の思いで応援していました。今年度は、念願であった「えりはら神路川工房」(志摩市社会福祉協議会)へ、みなさんと訪問できたことも嬉しい出来事でした。これまでは学内で出会うだけであった作業所のみなさんの日常の様子、パンづくりの現場や店舗の様子などを知ることができましたね。学内でのパン販売にも新たな想いを抱くことができたのではないのでしょうか。4年生のみなさんは卒業となりますが、この活動を通して自ら育んだチカラやメンバー相互の信頼を、これからも大切にしていってくださることを願っています。



成果物 / 制作物

